SPEDI 交渉機能PROx ユーザーマニュアル

交渉の「設計図」を描き、勝ち筋を明確に。

最終更新: 2026年2月27日 | 対象: SPEDI ユーザー | 作成: PROx AI分析プロジェクトチーム

目次

第1章 全体の流れ 3ページ
第2章 PROxの全体像 5ページ
第3章 案件を選ぶ・始める 7ページ
第4章 情報を入力する 9ページ
第5章 交渉の設計図を組む 11ページ
第6章 レポートの読み方 13ページ
第7章 戦略を組み直す 15ページ
第8章 レポートを出力・保存する 17ページ
第9章 うまく使うコツ 19ページ
よくある質問 20ページ
用語集 21ページ
困ったときは 22ページ

第1章 全体の流れ

PROxは「入る → 設定する → 解析 → 結果 → 出力」の一本道です。まずこのパスとツールの全体像をつかめば、あとは画面に従うだけです。

① 案件を選ぶ

新しい交渉を始めるか、過去の案件の続きを選びます。SPEDIと同じ操作です。

② 情報を入力する

相手・状況・目的を入力します。SPEDIのフォームと同じ。ここで入力した内容がPROxの分析の材料になります。

③ 設計図を組む

ゴール・ルール・ツールを設定します。交渉戦略を組む。ここがPROxの中核です。ここで解析の質が決まります。

④ 解析する

AIが設定内容をもとに、シナリオ・リスク・ツールの適性度を組み合わせて解析します。ここは自動処理。待つだけです。

⑤ 結果を見る

解析が完了すると、結果画面に自動で切り替わります。ここで解析結果を確認します。

⑥ 出力する

結果をPDFとしてダウンロードします。ここまでが基本の流れです。

ポイント

入力は、どれだけ丁寧にしても、AIが間違うことがあります。AIの提案内容は、必ず自分で確認してください。PROxは「考えるための道具」であって、「答えを教える存在」ではありません。

← 1ページ目へ戻る　2ページ目へ →

第2章 PROxの全体像

SPEDIとの関係は、PROxが「SPEDIを拡張する」ものではなく、あくまでSPEDIとは別物です。これ以外の目的・機能は、本書の冒頭にまとめて説明されています。

PROxは「交渉の設計図」を組む道具

SPEDIが「交渉の実行」を支援するのに対し、PROxは「交渉の設計図を組む」ための道具です。SPEDIで入力した情報をもとに、PROxがゴール・ルール・ツールを設計し、SPEDIへ戻して使います。

SPEDIで入力
ゴール
ルール
ツール
SPEDIへ戻す
SPEDIで実行
SPEDIへ戻す
SPEDIで結果を確認
SPEDIへ戻す
SPEDIで結果を確認
SPEDIへ戻す
SPEDIで結果を確認